

期待される自衛隊選手

ロンドンオリンピック参加自衛隊選手への激励



防衛大臣 森本 敏

ロンドンオリンピック参加に内定した選手諸君、大会出場、本当におめでとうござります。選手諸君が厳しい選手選考会を勝ち抜き、見事に我が国の代表選手に選ばれたことは、我々防衛省・自衛隊にとっても大変名誉なことです。

レスリングでは10年、11年と2度の世界選手権女子48kg級で優勝した小原日登美1等陸尉、フリー55kg級湯元進一2等陸尉、11年世界選手権フリー66kg級銀メダリストの米満達弘3等陸尉、グレコローマン66kg級藤村義2等陸曹、ボクシングではフライ級須佐勝明3等陸尉、バンタム級の清水聡3等陸尉、ウエルター級の鈴木康弘3等陸尉、ライフル射撃では12年アジア選手権王者の谷島緑2等陸曹、陸上では50km競歩の山崎勇喜2等陸曹、水泳では200m個人メドレーの高桑健3等海尉、近代五種では富井慎一3等陸曹、同種目日本人女子で史上初となる山中詩乃陸士長、ピストル射撃では小西ゆかり予備2等陸曹、皆、これまで諸大会において輝かしい戦績を残している歴戦の勇者であると聞いています。選手諸君のオリンピック大会への出場は、これまで汗と涙の努力を積み重ねてきた成果です。それは国際平和協力活動などで世界中で活動する隊員たちが流す汗と何ら変わるものではありません。結果は必ず付いてきます。

諸君には、選手であると同時に自衛隊員であることの自信と誇りをもって頑張ってきてもらいたいと思います。



自衛隊体育学校長 陸将補 畑中 誠

いよいよ今年7月27日からロンドンオリンピック大会が開催されます。本校の役割の一つである国際級選手の育成は、昭和39年の東京オリンピックに始まります。東京大会の開会式直後に金メダルを獲得したウエイトリフティングの三宅選手(当時3等陸尉)、そして大会終盤の夏季オリンピックの華である男子マラソンで銅メダルを獲得した円谷選手(当時3等陸曹)、正に自衛隊体育学校が東京オリンピックを支えたと云えます。それから半世紀の時が流れ、自衛官アスリートたる体育学校の学生達が13回目のオリンピックに挑みます。レスリング4名、ボクシング13名、近代五種12名、ライフル射撃1名、水泳1名、陸上11名の6種目12名の選手がchallengeします。

「戦い」に勝つことが目標である自衛隊の体育学校が、これ迄の地道な積み重ねをベースに、世界のスポーツの戦いの場で組織として挑んだ成果が、昭和63年のソウルオリンピック以来6大会振り、実に四半世紀振りに2桁の選手派遣となりました。学生達が正々堂々と全力を出して戦いロンドンの競技場に高々と日の丸を揚げ、体育学校が取り組んできた世界に通用する「心、技、体」創りのノウハウが正しいことを証明するとともに、東日本大震災で傷ついた国民の皆様や隊員諸官に「最高の笑顔」を届けてほしいと願っています。

米満達弘
レスリング・フリー66kg級
1986年8月5日生まれ
山梨県出身
2009年4月1日入隊
3等陸尉



9年世界選手権銅メダル、2010年アジア大会金メダル、そのオリンピック出場枠がなかった2011年世界選手権では昨「アジア大会決勝で下したイランの選手に借しも取れたが、」は世界のトップにいることは間違いない。
柔らかなさと手足の長さを生かした誰も真似のできないツツを武器に金メダルを狙う。
23年度天皇杯も獲得し、レスリング日本男子の命運は米かかっていると言っても過言ではない。

高桑健
水泳・200m個人メドレー
1985年3月25日生まれ
静岡県出身
2007年4月1日入隊
3等海尉



北京に続く2大会連続出場。200m個人メドレーでは日本記録1分57秒24の日本記録を保持し、日本の第一人者。生後4ヶ月で初めてプールで泳ぐが、高校まではそれほど強い選手ではなかった。だが、麗屋体育大学で、先輩の柴田亜衣がアテネで金メダルを獲得したのに触発され、恩師田中学雄教授の指導で開花。2007年に入隊以来着実に進歩。北京では予選、準優勝、決勝と日本新記録を連発し、同種目では日本人最高位となる5位入賞。ロンドンでは56秒台を出して、メダルを狙いたい。

清水聡
ボクシング・バンタム級
1986年3月13日生まれ
岡山県出身
2009年4月1日入隊
3等陸尉



北京に続く2大会連続出場。世界的にもこの階級では身長が、リーチが長い。ボクシングの特徴は、サウスボースタイ相手との距離をとりながらリーチを活かしたアウトボクシングが持ち味。だが、清水は打ち合いになっても競り負けないブレイクアップの破壊力も抜群。後は、課題である最初のラドからのスパートと清水が理想とする2輪同時の攻撃ができれば十分世界で通用する。ボクシングで2大会連続入賞が6人目。独特の清水の個性を發揮して、新しい世界を叩いてもいいだろう。

富井慎一
近代五種・男子
1980年9月1日生まれ
愛知県出身
2003年4月入隊
3等陸曹



中学生時代水泳400m個人メドレーで全中(全国中学体育大会)優勝の経歴を持つが、その後水泳は低迷。2003年に入隊後、近代五種を始め、2007年に全日本選手権を制覇。そして2009年ワールドカップハンガリー大会で日本人として初めて7位入賞を果たす。
2010年アジア大会では日本人トップの6位入賞で日本チームの銅メダルに貢献。
各種目バランス良く、フェンシングで大負けしなければ、入賞が狙える。

山崎勇喜
陸上・50km競歩
1984年1月16日生まれ
富山県出身
2011年4月1日入隊
2等陸曹



北京に続く3大会連続出場を果たした山崎は日本の第一人者。4月15日の50km日本選手権の記録、3時間41分47秒は、昨年の世界選手権で銀メダルの選手記録を超える世界ランキング2位に相当する。北京では、入賞の7位入賞をはずしたが、ロンドンではメダルを狙える位置にあることは誰も疑問を唱えないだろう。故障を心配する中、自衛隊体育学校に入校。人間的にも、実力も飛躍的に伸びている山崎こそ、日本陸上の主になるだろう。

山中詩乃
近代五種・女子
1990年8月3日生まれ
高知県出身
2009年4月入隊
陸士長



近代五種は入隊して始めた種目であったが、2011年のアジア・オセアニア選手権で5位に入賞し、オリンピック出場権を獲得。日本の近代五種女子選手としては史上初の快挙。元々高校時代大分団体5000mで準優勝するなど、ランの実力は高く、さらに入隊して始めた射撃も適性があり、コンバインドは世界のトップクラス。
フェンシングがもう少し勝てるようになると、上位争いに期待が持てる。競技を始めてたった2年で勝ち取ったシンドレラガールの実力はあなどれない。